

# 仁木町の疑問について

仁木町北町 1 丁目 4 5

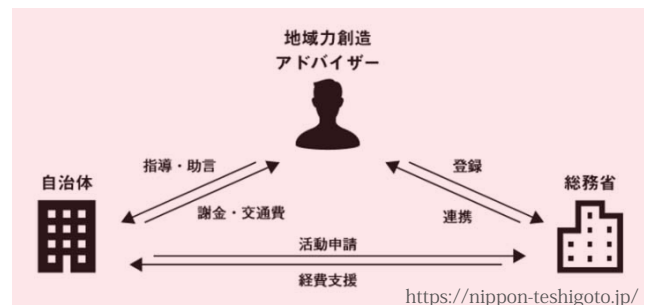
津司 康雄

## 1. 地域創造アドバイザーとは

「地域力創造グループ」の目的は、時代の動きに即応し、常に新たな政策を企画・立案し、地域経済好循環推進プロジェクトの推進、定住自立圏構想の推進、過疎地域等条件不利地域の自立・活性化、都市から地方への移住・交流の推進、人材力の活性化・交流・ネットワークの強化、地域情報化の推進、国際交流・国際協力などの重要な課題に地方公共団体が積極的に対応していけるよう支援をすること。



この制度は 2008 年に創設され、毎年各都道府県から 1 名の推薦を受け、総務省の審査で選ばれます。



地域独自の魅力や価値の向上に取り組みたい自治体から招聘を受け、その経費（年間 560 万円、最大 3 年間）を総務省が全額支援する制度です。

## 2. 公募型プロポーザル方式を仁木町に導入のきっかけ

公募型プロポーザル方式とは、地方自治体などが応募した企業の中から最適な企業を選定する方式です。

事業に参加したいと考えている企業は、**発注者が作成した仕様書に従って**、定められた期日までに提案書を提出します。

その後、自治体側が各企業から提出された提案書をチェックして、事前に規定した評価基準に従って採点し、事業を委託する企業を選定します。

しかし、仁木町の場合と言うか(株)ワンテールとの付き合いが大きくなると随意契約に無理が出て色々な問題が出てくるので、その隠れ蓑に公募型プロポーザル方式を仁木町に伝授したと前島田社長が述べています。

方法としては、他に無いものを付けて公募型プロポーザルで募集すると、他の企業は準備が間に合わず、気心の通じた会社が独占できる。

### 3. (株)ワンテール前島田社長の本心

---

(株)ワンテール前島田社長は、連携を持ちかける自治体は「財政力指数0.5以下が狙い目」と明かし、全国に財政力指数0.5以下の自治体は900ぐらい。それぞれの予算を合計するとまあまあ何兆円になる。

これを僕たちは狙い、「行政機能を分捕る」と語った。

「華々しくやるとハレーションが大きいからちょっとずつ侵食します。」「**0.5以下の自治体は、人もいない、ぶっちゃけバカで現場の人には無理です。**」

「そういうときに、うちはいま『第二役場』って、機能そのものをぶん取っている。」



画像出典： <https://www.projectdesign.jp/>

## 「(地方議員は) 雑魚だから。」

「俺らの方が勉強しているし、『言うこと聞け』っていうのが本音じゃないですか」

「第2役場」と称し、「(行政機能を) ちよつとずつ侵食して、**機能そのものをぶん取る**」

「一步踏み込むエリアっていうのは2地域だけある(福島県国見町・岡山県西栗倉村<sup>にしあわくらそん</sup>)。本当に制圧できる。地方議会なんてそんなもんですよ」  
などなど語った音声を、河北新報記者に録音されました。

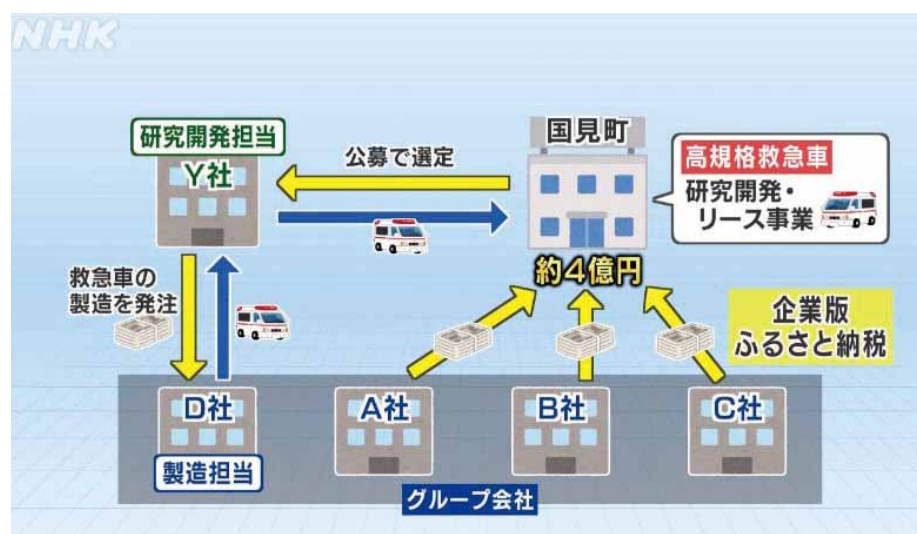
(株)ワンテール前島田社長は、地域力創造グループの目的を逸脱して自社の利益追求にのみ邁進し、総務省のアドバイザー登録を抹消されました。

## 4. (株)ワンテール前島田社長の辞任理由

ふるさと納税制度企業版の90%還付を悪用し、すべてをグループ企業で回して利益率35~40%ともうかるに決まっていると、うそぶいている中にも法に触れる部分がある。(原則グループ内で回すことは禁止です)

島田氏は一連の発言を自身の発言と認め「行政運営や地方議

会を軽視する発言が含まれており、きわめて不適切なものでした」と謝罪し、代表取締役社長の職を退くとした。



画像出典：NHK 福島 WEB 特集 <https://www.nhk.or.jp/fukushima/> より

## 5. 佐藤聖一郎町長の心

町長は、議会答弁で「豊かな創造性と高い技術力、豊富な経験を有する優れた事業者の協力が必要であり」と云々答弁していますが、(株)ワンテーブル前島田社長は、前記3.の本音を言って、自治体を食い物にしている。



画像出典：<https://ja.wikipedia.org/>

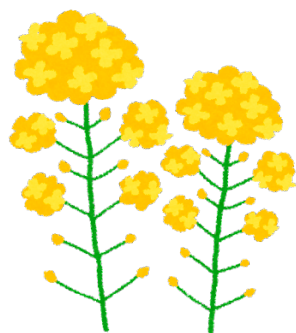
その、(株)ワンテーブル前島田社長が辞任の挨拶に来た時に「ワンテーブルの島田氏は、何一つ法に触れていないので、逆に正々堂々としていれば良い」と偽善事業者を庇い、賛美している。

## 6. 法とは何か

法律は、全てをカバーするものではなく、一般常識的なことは人格を信頼して定めていない部分が多々ありますこと、また、時代の進化についていけないこともあります。

例えば昔窃盗と言えはるものを盗むことをさしたが、電気が出来て「**電気窃盗**（でんきせつとう）とは、電気を目的物とした窃盗のこと。**盗電**（とうでん）ともいう。電気の様態が他の財物とは大きく異なるため、過去にその犯罪の成否をめぐる激しい論争が繰り広げられた。」こともあり、常識的に悪いことは、人間を信頼して定めていない部分があります。

法が無いから何でもしては良いと言うことはありません。



法律で規制がないから何でもして良いと言うことではなく、法律がなくとも社会常識的なことは、人間の尊厳で守り、住みよい社会を守っていききたいと思います。

公の人達は、更に一段上の遵法精神が求められていると思います。